

# 【クレーム情報】

## ドライクリーニングでの際つき

冬物衣料に多い中わたやダウンを使った製品、高密度織物を使用した製品などは、ドライ洗剤などの不揮発成分が洗濯物に残留することでシミが発生する事故が目立つようになります。今回は、ドライ洗剤などの残留によるシミ（際つき）について紹介します。

### ■事故の状態

表示を参照してドライクリーニング後、自然乾燥したところ、前後身頃などの縫い目に沿ったような状態で、色が濃くなっている。一緒に処理をした他のものはこのような状態になっていない、とクリーニング業者から申し出があったもの。全体的にまだらに濃色になっている。

### ■原因

脱液後に残留していた洗浄液が乾燥の段階で縫い目部分に移動、集中し、ドライ洗剤を主体とする溶剤中の不揮発成分が濃縮されたことにより生じた現象。縫い目部分などは、乾燥が遅れるためにこのような状態になりやすい。

シミに水をスプレーすると速やかに吸収して濡れた状態になることから、シミの成分がドライ洗剤を主体にしていることが推定できる。

このような現象は、洗浄液が浸透しにくく、また浸透した洗浄液が抜けにくい性質をもつ樹脂コーティング製品や高密度織物製品などに発生しやすく、中わたや羽毛を使ったキルティング製品は、洗浄液の残留量が多くなるためさらに発生しやすい。

### ■事故の防止対策

ドライ洗剤の残留をなくすることが絶対条件となるが、特に石油系ドライクリーニングの場合は\*1浴循環式のシステムが基本のため、ドライ洗剤をすぎ出す工程を実際上とることができず、完全な防止は困難。適正な溶剤管理を行うことでできる限りシミの発生を軽減することが基本となる。

\*1浴循環式…一つの槽内で、ベースタンクから同一の溶剤をフィルター循環させて洗浄する方式

主なポイントは次の通り。

・溶剤の酸価と着色状態を管理しながら常に清浄な状態を保つ

石油系ドライクリーニングでは、パウダーやろ紙等によるろ過と、活性炭や脱酸剤等での吸着により溶剤を清浄化しているが、フィルター性能の低下や能力不足、吸着性のない油性汚れ等のため、全ての汚れをフィルターで完全に捕捉することは不可能である。これらの汚れが溶剤中に蓄積することもシミの原因になる。

・洗浄時間を適正に設定する

1浴フィルター循環による洗いを基本とする石油系ドライクリーニングでは、汚れがフィルターで完全に除去された時点で洗浄を完了するのが理想であり、洗浄時間は、フィルターで汚れが十分に除去されるよう考慮して設定する。

・脱液を十分に行い、汚れた洗浄液の残留量をできる限り少なくする

・汚れや加工剤などが部分的に集中しないように乾燥方法を工夫する



写真1 子ども用の中わたジャンパー



写真2 各所縫い目に沿って濃色のシミのようになっている

- 品名…中わたジャンパー
- 素材…表地：ポリエステル100%  
中わた：ポリエステル100%
- 取扱い絵表示…
- 処理方法…石油系ドライクリーニング8分、タンブラー乾燥